

INTERVIEW

国民健康保険 大間病院 院長
松岡保史先生



地域医療の面白さを 伝えていきたい!

聞き手：山田隆司 地域医療研究所長

本州最北端の公立病院に赴任して

山田隆司(聞き手) 今回は本州最北端の地にある大間病院に、病院長の松岡保史先生をお訪ねしました。ここは長年青森県の自治医科大学卒業生がお世話になっている病院だと聞いています。

まず、先生の経歴と、現在院長として職責を持たれているわけですが、そういったことも含めてお話を伺えればと思います。

松岡保史 私は自治医大32期卒業で、現在卒後10年目になります。青森県の場合は、後期研修を含めて9年間の義務年限になっています。初期研修は青森県立中央病院で2年間行い、その後2年間を外ヶ浜中央病院の内科で、地域医療に従事しました。それから三戸中央病院で1年間、内科医として勤務したあと、後期研修として自治医科大学の総合診療内科地域医療学コースに

1年間お世話になり、大学の総合診療を勉強しました。そして6年目から大間病院に赴任し、今に至ります。

山田 青森県は県内だけではなく自治医大に後期研修に行くこともできるのですね。

松岡 はい、基本的にはどこに行ってもよいことになっています。

山田 後期研修は1年だけですか。

松岡 はい、1年だけです。

山田 1年では義務年限内に専門医を取るのは難しいですね。

松岡 1年ではやはり厳しいので、基本的には9年終わってから改めて専門医を取るという感じですね。

山田 外ヶ浜中央病院と三戸中央病院はへき地勤務

としてカウントされるのですね。

松岡 そうです。大間病院，三戸中央病院，外ヶ浜中央病院は卒業生が異動する基本の場所で，そこにプラス a ，一人診療所の田子診療所と小泊診療所があり，そこに2年間ぐらい行く人もいます。

山田 その時々でどこに赴任することになるかわからないという例が他県では多いのですが，そういう意味では青森県は，同じ場所で次の人にバトンを渡すことができるのはいいですね。

松岡 青森県の場合も，急にここ，あそこと増えることはありますが，配置をするときに，自治医大の義務年限の代表，県の代表，青森県立中央病院の病院局の3者が集まって配置委員会を行って調整をします。

山田 卒業生はその義務年限の代表者にある程度委任するということになるわけですね。山形県なども同じようにキャリアが公平になるように調整していると聞いていますが，卒業生が協力して調整できるほうがいいですよ。

それで，6年目にこちらの大間病院に赴任して義務終了までいらしたわけですね。

松岡 義務が明けて，今そのままプラス1年，やっている状況です。

山田 院長になったのはこの1年ですか。

松岡 義務の最終年からですので，今は2年目になります。

山田 ここでは代々卒業生が義務内で院長になっているのですか。

松岡 平成6年からそうになっています。

山田 青森県の卒業生は，かなり多くが大間病院を経験しているのですね。

松岡 そうですね。これまでに80数名の卒業生のうち62名ほどが来ています。

山田 現在，卒業生は何人いるのですか。

松岡 医師は6名いて全員自治医大出身です。私が10年目で，あとは8年目1人，6年目1人，4年目2人，3年目1人です。

山田 ちょうどいい感じですね。ここは何床あるのですか？

松岡 48床です。医療圏として，大間町と隣の風間浦村，佐井村の3つを診ているので，1万人弱の人口に対して48床と医師6名で診ている状況です。

山田 病床をもった唯一の公的病院として，救急車も受け入れているわけですね。後方病院はどこになるのですか？

松岡 むつ総合病院です。ここから救急車で1時間弱かかりますし，そこで受け入れられない重篤な場合は，県立中央病院まで行かなくてはなりません。県立中央病院までは救急車で3時間，冬だと4時間かかります。

山田 それは厳しいですね。

松岡 そうですね，日中であれば八戸市立市民病院か県立中央病院からドクターヘリに来てもらうのですが，下北は山があるため急激に天候が変わって飛んでこられない時があります。ここからなら海の向こうに函館が見えるくらいなのでそちらから飛んできてほしいのですが，県と北海道が協定を結んでいないので駄目なのです。